

科目名	人間と思想				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2022年度 後期	単位数	2		
担当教員	高橋 嘉代				
内容および計画	<p>この授業では人間とその思想について、西洋哲学における議論を中心として学び、分析し、理解を深めることを目的とする。</p> <p>「人間は考える葦である」とパスカルがいみじくも語ったように、私たちは、感じる・思う・考えるという営みを、好む好まざるによらず日々絶え間なく続けている。これらの営みを日常生活から完全に切り離す事は難しく、感じる・思う・考えることは日常生活そのものとさえ言い得るだろう。とはいえ日常生活そのものであるが故に、いかなる思いも考えも、時の奔流に崩されて移ろい消えてゆきもする。この奔流のなかから掬い取られた「感じ」「思い」「考え」を、紆余曲折を経ながらも、濾過を何度も繰り返し注意深く蒸留し、漸く得られたエッセンスが思想であり哲学なのである。</p> <p>これを学ぶということは、他者のそして他の文化における原点・出発点とそこから導かれる到達点それぞれを、つまりヴィジョンを学ぶということでもある。そして同時に、他ならぬ自分自身が如何なる思想の枠組みをもって考えかつ行動しているかについての認識を深めてゆくことにも繋がる。これらの学び・認識の深まりによって、個体としての人間の有限性と、「感じ」「思い」「考え」の濾過と蒸留の営みを時代を超えて伝えてゆくことができる人間の無限性とを、共に理解することになるだろう。</p> <p>授業では、人間の日々の営みの中で現れては消えてゆく膨大な感じ・思い・考えの中から、先人たちは特定の何かをなぞ掬い取るに至ったのか、それぞれの時代と社会の限界があった中、その限界を超えて今なお生きる思想を先人たちはいかにして練り上げてゆくに至ったのかについて解きほぐしてゆく。「知と人間」「自我について」「正しさとは」「役立つとは」「生と死と」の五つの大テーマのもとで、関連する思想および論者について概説してゆく。</p>				
1	ガイダンス：考えることと生きること				
2	知と人間（1）：ソクラテスの哲学				
3	知と人間（2）：プラトンの哲学				
4	知と人間（3）：アリストテレスの哲学				
5	知と人間（4）：快楽主義と禁欲主義				
6	自我について（1）：キリスト教の思想の成立				
7	自我について（2）：人間をとりもどせ！ルネッサンスの思想				
8	自我について（3）：神と自分は今どこに？デカルト・スピノザ・ライプニッツの哲学				
9	自我について（4）：イギリス経験主義者たちの主張				
10	正しさとは（1）：ドイツ理想主義の展開				
11	正しさとは（2）：功利主義と実存主義				
12	役立つとは（1）：パース・ジェームズの哲学				
13	役立つとは（2）：デューイの哲学				
14	生と死と（1）：命の始まり・終わりとはと医療				
15	生と死と（2）：安楽死・尊厳死				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
使用しない（教員作成の資料を用いる）					
参考書	とくになし。教員作成の資料を用いる。				
成績評価					

評価方法		割合(%)
試験（授業時の配布資料に限り持ち込み可）		100
<p>期末試験は、「選択式」「語句の解説」「論述」という形式を予定している。「選択式」は授業中解説した概念や論者等について記述された文章の空欄部分に該当する語句を選択して補充、「語句の解説」は授業中解説した概念等の簡単な解説、「論述」は授業で課した課題に基づくトピックを中心とした論述問題を出題する予定である（配布資料および自筆ノートに限り持ち込み可）。</p>		
学習到達目標	哲学の基礎知識を学ぶことを通して、 ・他者理解・自己理解の方法の選択肢を増やしてゆくことを目標とする。 ・自分で考え、表現する力を身につけることを目標とする。	
先修条件	なし	
実務経験		
その他	授業で学んだことをヒントとして、様々な切り口から物事を考え、自分の言葉で表現する力を身につけて欲しい。	